

# 林兼産業株式会社

## 2014年3月期第2四半期 決算説明資料

---

決算概況と2カ年経営計画

2013年11月13日

## I 2014年3月期 第2四半期実績

連結損益計算書の概要	・・・ 3
経常利益の増減要因	・・・ 4
セグメント別の売上高・営業利益	・・・ 5
貸借対照表の概要	・・・ 6
キャッシュ・フロー計算書の概要	・・・ 7
四半期業績の推移	・・・ 8
セグメントの状況	・・・ 9-11

## II 2カ年経営計画の進捗状況

2カ年経営計画の進捗状況	・・・ 13-14
セグメント別の進捗状況	・・・ 15-17
通期見通し	・・・ 18
今後の施策	・・・ 19-20

# *I* 2014年3月期第2四半期実績

# 連結損益計算書の概要

(単位:百万円)

	2013年3月期 第2四半期累計	2014年3月期 第2四半期累計			
		実績	前年増減	当初計画	計画増減
売上高	22,722	22,186	▲536	23,500	▲1,313
営業利益	388	▲12	▲401	90	▲102
経常利益	398	▲30	▲429	70	▲100
四半期純利益	403	▲46	▲450	10	▲56

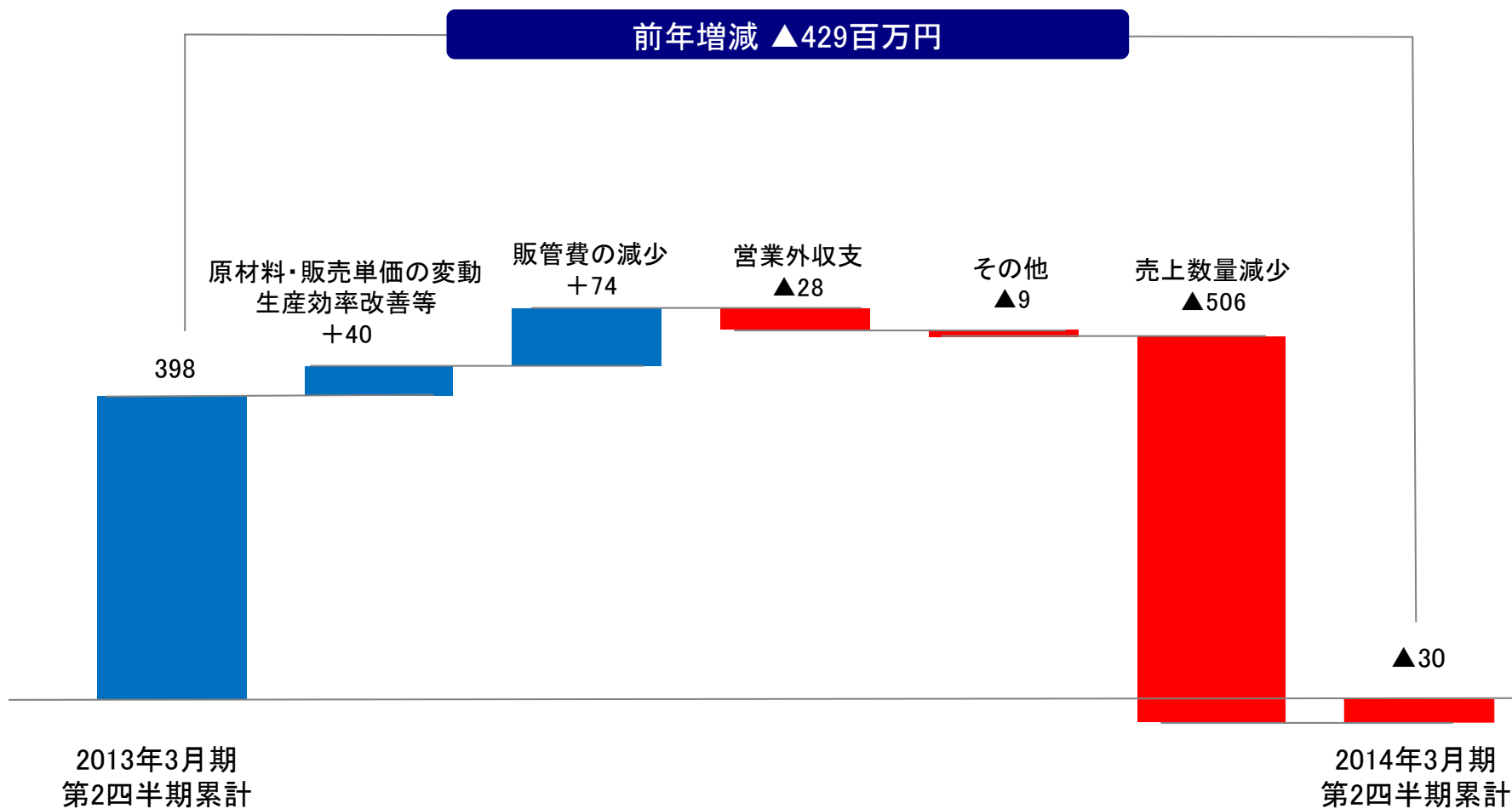
## 前期との主な変動要因

売上高 魚肉ねり製品販売数量減により減収  
畜産用飼料製造中止(2012年6月)による減収

営業利益 魚肉ねり製品販売数量減により減益  
食肉加工品の原材料価格の高騰および生産数量減により減益

魚肉ねり製品の販売数量減少や食肉加工品の原材料価格の高騰等により減益

(単位:百万円)



# セグメント別の売上高・営業利益

(単位:百万円)

	2013年3月期 第2四半期累計	2014年3月期 第2四半期累計			
		実績	前年増減	当初計画	計画増減
<b>売上高</b>	22,722	22,186	▲536	23,500	▲1,313
水産食品事業	2,361	1,794	▲566	2,210	▲415
畜産食品事業	8,402	8,776	373	8,480	296
飼料事業	10,988	10,753	▲235	11,870	▲1,116
その他の事業	968	860	▲107	940	▲79
<b>営業利益</b>	388	▲12	▲401	90	▲102
水産食品事業	64	▲84	▲148	30	▲114
畜産食品事業	110	▲104	▲214	160	▲264
飼料事業	673	644	▲29	410	234
その他の事業	70	74	3	60	14
消去又は全社	▲530	▲543	▲13	▲570	26

# 貸借対照表の概要

(単位:百万円)

	2013年3月期末	2014年3月期 第2四半期末	
			増減
流動資産	12,562	12,555	▲7
固定資産	14,892	15,950	1,058
資産合計	27,455	28,506	1,051
流動負債	15,722	16,108	385
固定負債	7,113	7,788	675
負債合計	22,836	23,897	1,061
純資産合計	4,618	4,609	▲9
負債純資産合計	27,455	28,506	1,051

# キャッシュ・フロー計算書の概要

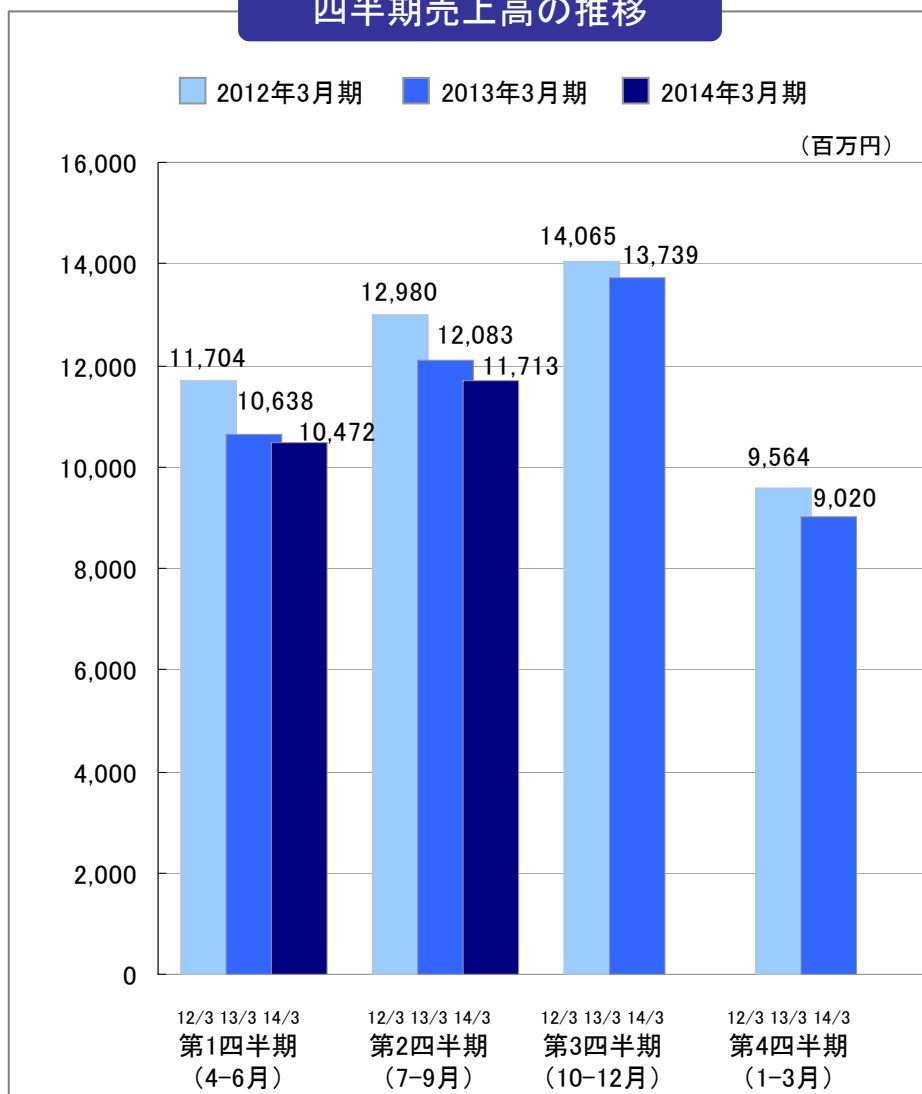
(単位:百万円)

	2013年3月期 第2四半期累計	2014年3月期 第2四半期累計	
			前年増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲63	▲1,597	▲1,534
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲467	▲433	34
フリー・キャッシュ・フロー	▲530	▲2,030	▲1,499
財務活動によるキャッシュ・フロー	275	1,344	1,068
現金及び現金同等物の増減額	▲255	▲686	▲430
現金及び現金同等物の期首残高	2,749	2,075	▲673
現金及び現金同等物の期末残高	2,494	1,389	▲1,104

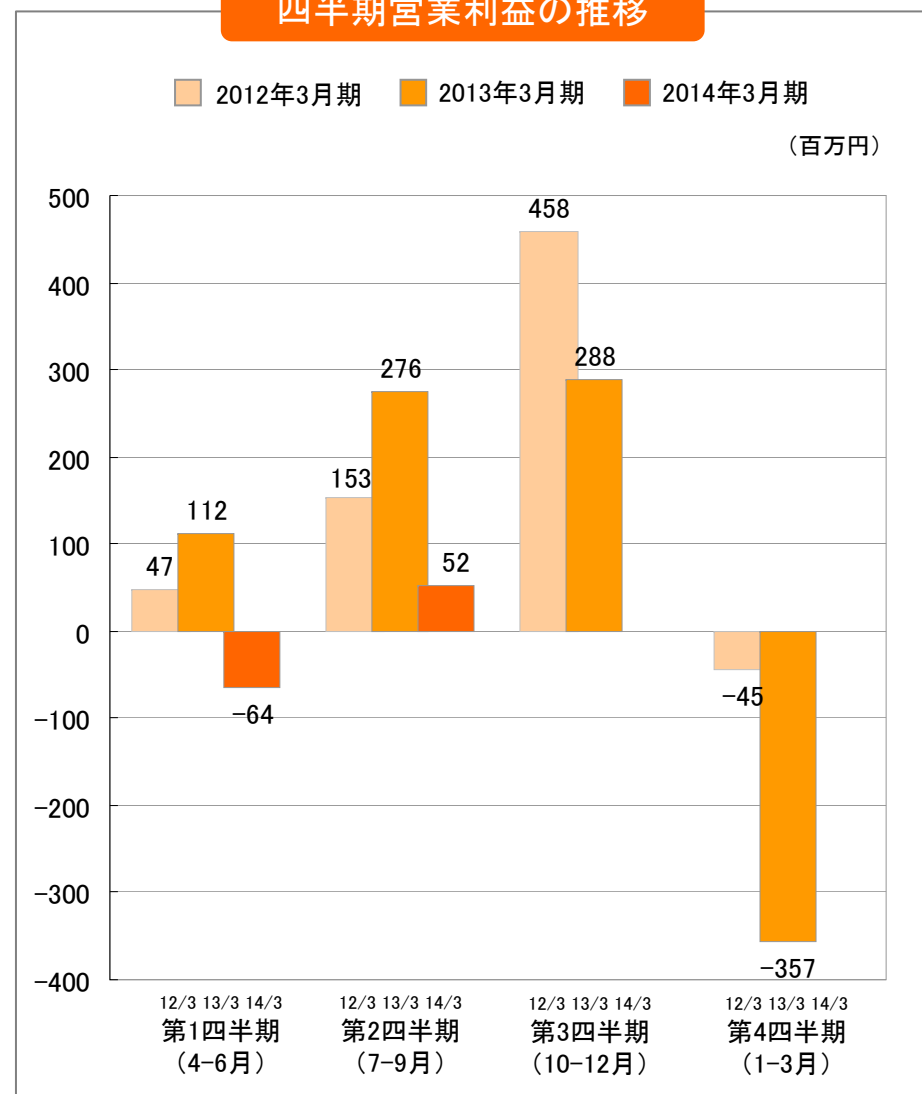


# 四半期業績の推移（売上高・営業利益）

## 四半期売上高の推移



## 四半期営業利益の推移



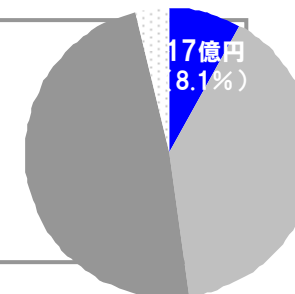
# セグメントの状況（水産食品事業）

概況：魚肉ねり製品市場の縮小傾向のなか、数量減少により減収減益

## 水産食品事業

売上高 17億94百万円（前期比24.0%減）

営業利益 ▲84百万円（前期 64百万円）



## 2014年3月期 第2四半期の状況

### 水産食品

- ・ 魚肉ねり製品事業
  - 販売数量の減少により減収減益
  - 生産ライン集約化による事業のスリム化推進

### 機能食品

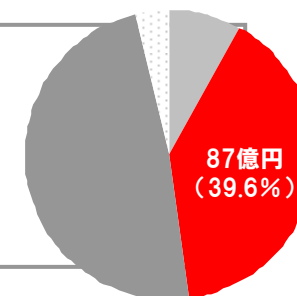
- ・ 採算性を重視、利益率が向上し増益
- ・ エラスチンの靱帯改善機能を確認。商品・素材提案を推進
  - … 商品開発に注力
- ・ 高齢者向けソフト食「ソフミート」
  - … 異業種と共同でソフト食セミナーを実施。売上拡大を図る。前期比 106%
- ・ 和菓子およびゼリーの売上拡大
  - … 和菓子委託先新工場による安全・安心な商品を生供給 前期比 122%

概況：原材料価格の高騰および食肉加工品数量減少により減益

## 畜産食品事業

売上高 87億76百万円（前期比 4.4%増）

営業利益 ▲1億4百万円（前期 1億10百万円）



## 2014年3月期 第2四半期の状況

### 食肉加工品

- ・ OEM生産数量減少により減収
- ・ 関東地区については、既存得意先の取り組み強化、自社販売ルートの開拓により増収

### 食肉

- ・ 豚肉・牛肉の販売数量は増加したものの、販売単価の下落により増収減益

### 調理食品

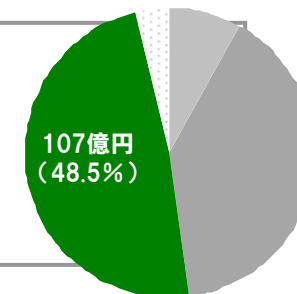
- ・ 惣菜などの販売が好調に推移し、販売単価が上昇したことにより増収

概況：販売数量の減少により減収減益

## 飼料事業

売上高 107億53百万円（前期比2.1%減）

営業利益 6億44百万円（前期比4.3%減）



## 2014年3月期 第2四半期の状況

### 養魚用飼料

- ・販売数量が減少したものの価格改定により販売単価が上昇したことにより増収

### 水産物

- ・養殖魚の在池量の減少により販売数量が伸び悩んだことにより減収

### 畜産用飼料

- ・下関工場での畜産用飼料製造中止（2012年6月）により減収

### 畜産物

- ・「赤鶏さつま」を中心とした販売に取り組むものの、市況低迷により減収

# *II*

## 2カ年経営計画の進捗状況

---

## 基本方針

可能な限りスリムで生産性の高い体制を構築することにより収益力を回復し、コスト競争力を確保することを基本戦略とする。

### 「構造改革」

対象工場の最適化により固定費の大幅削減を行う。ライン集約・要員削減を行い、一旦生産数量を落として収益基盤の改善を図る。

### 「コスト削減」

将来的には改めて売上げ拡大を目指すものとする。生産部門においては固定費を増加させないように管理し生産力を高める。今後、コスト競争力と営業強化をもって利益増加を図る。

## 再構築対象

### 《初年度の取組み》

魚肉ねり製品事業のスリム化

食品下関第一工場

飼料事業の選択と集中

飼料下関工場

### 《2年目の取組み》

#### 「畜産食品事業の基盤整備、販売強化」

・工場体制の見直し

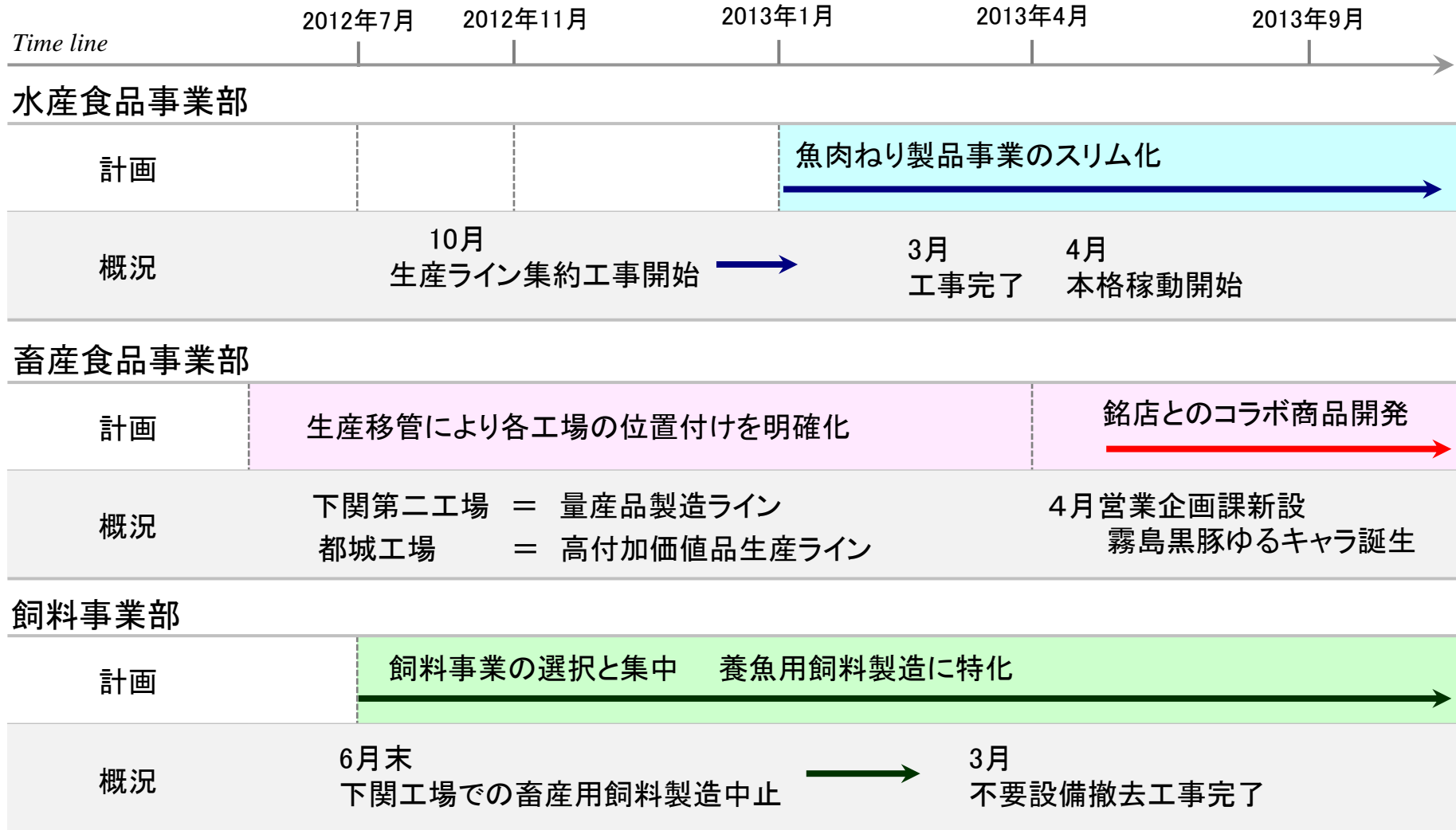
食品下関第二工場、都城工場

・営業強化

営業企画部門新設

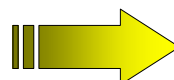
# 2カ年経営計画の進捗状況

2カ年経営計画に沿い、下関飼料工場での畜産用飼料製造を中止。水産食品における生産ライン集約工事に着手。計画通りの進捗



## 水産食品事業

現在までの実行状況



今後の取り組み

### ■ 魚肉ねり製品事業のスリム化

- ・下関第一工場の集約改修工事実施  
老朽化対策
- ・ライン短縮による効率化
- ・品質管理強化
- ・要員削減

- ・効率化追求による生産性向上
- ・一段の労務コスト・工場稼働経費の削減

### ■ 魚肉ねり製品の販売拡大

- ・主力OEMの受託数量減少
- ・新規輸出チャンネルの開拓(中国・台湾)
- ・業務用製品の開発

- ・主力OEM先との取組強化
- ・海外での販路開拓
- ・二次加工製品等、新規業務筋の開拓
- ・営業組織強化

### ■ 機能食品の拡大

- ・東京支社要員強化によるエラスチン、ソフミート、  
和菓子の拡販
- ・新機能素材アスコフィラン、ヒシエキスの販売開始
- ・和菓子新工場の誘致、生産開始

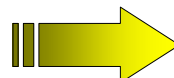
- ・関東・関西エリアへの拡販
- ・臨床データ、エビデンスによる差別化
- ・営業組織強化



## 畜産食品事業



現在までの実行状況



今後の取り組み

### ■工場体制の見直し

- ・下関第二工場(量産品)・都城工場(高付加価値品)体制のための生産移管実施
- ・下関第二工場にスライス包装ライン増設
- ・林兼フーズ第二工場(加熱調理品)の改装実施
- ・各工場の生産体制の見直し

- ・都城工場食肉惣菜棟の改築とライン整備
- ・都城工場の生ハム生産ライン整備
- ・新規取引企業からの受注増加による稼働改善・効率化追求による生産性向上

### ■営業企画部門の新設

- ・営業企画課を新設
- ・霧島黒豚イメージキャラクター「キリクロさんちのポーくん」を展開
- ・外食銘店監修ギフトを開発(赤坂璃宮、とりもつえん)
- ・霧島黒豚の輸出開始(香港)

- ・OEM受託の拡大
- ・イメージキャラクター活用による認知度アップとブランド強化
- ・銘店ギフトを中心とした首都圏百貨店の新規開拓
- ・霧島黒豚の輸出拡大

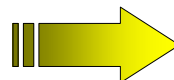
### ■売上高の拡大

- ・大手食肉企業との取引開始
- ・大手流通企業での冬ギフト取扱い決定

- ・大手食肉企業との取引増加による食肉・加工品の売上拡大
- ・大手量販店へのギフト拡販とPB参入
- ・営業組織強化

## 飼料事業

現在までの実行状況



今後の取り組み

### ■ 下関工場での畜産用飼料の製造中止

- ・不採算であった下関工場での畜産用飼料の製造を平成24年6月で終了
- ・畜産用飼料の製造を他社へ委託
- ・ユーザーとの取引の見直し

・南九州拠点の拡大

### ■ 養魚用飼料への特化

- ・大手養殖生産企業への営業強化
- ・オンリーワン技術飼料の開発  
新時代飼料(魚粉非依存型飼料)を開発・発売  
マグロの稚魚から成魚までを配合飼料だけで養殖できる技術を開発

- ・提案型営業と技術力によりシェア拡大
- ・オンリーワン技術飼料の拡販
- ・海外展開強化  
輸出の増加  
技術飼料の開発

(単位:百万円)

	2013年3月期 実績	2014年3月期			
		通期見通し(2013.11)	前年増減	当初計画	計画増減
売上高	45,482	46,000	517	49,000	▲3,000
営業利益	319	▲150	▲469	370	▲520
経常利益	355	▲260	▲615	300	▲560
当期純利益	351	▲320	▲671	180	▲500

## 2014年3月期 通期の見通し

販売数量の低迷や販売単価の下落など更に厳しい状況が続くものと予想されることから  
第2四半期累計期間の業績も考慮し、当初計画を修正。

## 機能食品の拡大

### ソフミート(ソフト食)

高齢者が増える国内市場において、ソフト食を開発・販売。  
咀嚼困難な方の為の新しい介護食として拡大。

### 和菓子

和菓子としての完成度の高さだけでなく、鉄分・カルシウムを配合した保健機能食品、栄養機能食品として販売。

### エラスチン

魚類由来の有効成分を抽出。ドリンク、パウダー、サプリメント、他食品に配合することで素材としての可能性を追求。

#### 素材としての可能性

美容関連素材：皮膚機能改善、向上(シワ、弾力性など)

循環器対応素材：血管機能の改善、向上

※ロコモティブシンドローム関連素材：靭帯、腱などの損傷予防

※ロコモティブシンドロームとは、主に加齢による運動器の障害のため、移動能力の低下をきたし、要介護となる危険の高い状態をさし、足腰の骨、関節、筋肉、靭帯、腱などの劣化が歩行困難をもたらす運動器症候群のことを言います。

ソフミートを使った料理例



▲ おせち料理



▲ にぎり寿司

## ハラール食品事業の展開

2010年12月末

マレーシアに合弁会社OMAKANE SDN. BHD. 設立



2012年秋

現地でのハラールソーセージの本格生産・販売(量販店への配荷)開始

2013年

MIHAS2013(マレーシア国際ハラール見本市)出展

現地量販店への配荷を拡大

新製品投入および既存品リニューアル作業中

マレーシアから他国への輸出に向け準備中。

ハラール食品(イスラム食品)とは、イスラム法の下では、加工や調理に関して厳格な作法が要求されます。イスラム法が遵守された食品がハラール(「許された」という意味)とされます。



ハラールソーセージマスケット  
キャラクター OMAKANEくん



▲専用スペースを確保した量販店の売場展開



▲AEONでの販売風景▼



▲量販店への販売活動中

 林兼産業株式会社

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

IRお問い合わせ先

林兼産業株式会社 管理本部総務部

TEL 083-266-0210

IRサイト <http://www.hayashikane.co.jp/ir/index.html>